

【投稿要領】

I. 原稿

1. ボリューム

12,000字（本文、注釈、参考文献、図表を含む。A4、40字×38行、8ページ程度）を上限とします、5ページから8ページ程度が望ましい。

2. 構成

- (1) 論文タイトル
- (2) 英文タイトル
- (3) 著者名
- (4) 英文著者名
- (5) 著者所属
- (6) 英文著者所属
- (7) 和文要約（800字以内）
- (8) 和文キーワード（5文字以内）
- (9) 本文
- (10) 文末脚注
- (11) 文末参考文献リスト

3. 書式等

- (1) 書式はワードプロセッサで、A4、40字×38行と設定。
- (2) 本文はMS明朝10.5ポイント、タイトルはMSゴシック。
- (3) 図表は原則として1点あたり400字換算とする。

II. 表記

1. 文章標記

- (1) 文章は原則として、当用漢字、現代かなづかいを使用し、横書きとする。句読点は、「、。」を使用する（「, .」は使用しない）。
- (2) 外国の国名、地名、人名などは、漢字による表記が慣例となっている場合を除き、原則としてカタカナ書きとする。
- (3) 外来語、現地の度量衡および貨幣の単位は、カタカナ書き（全角）とする（中国を除く）。ただし、パーセントは記号（%）を使用し、図表では一般的な単位は記号（m、g、t、haなど）を使用する。
- (4) 数字は、原則として算用数字を使用する。ただし万以上の数字には万、億、兆を用いる。なお、継続を示す場合は～を使用する。

（例）3億500万円、2008～13年

2. 項目の区分と表記

大項目 : I、II、……（節に相当）

中項目 : 1、2、……（項に相当）

小項目 : (1)、(2)、……3

列举項目 : 1)、2)、……

3. 図表の表記

- (1) それぞれ通し番号を付し表題をつける。必ず単位、出所を明記する。
- (2) 表について注記が必要な場合には、出所を示したあとにつづける。

4. 注の表記と位置

注記は通し番号 1) 2)……を付し、文末脚注にする。

5. 引用の表記

本文中または注において引用箇所を表記する場合、章末に参考文献を一括配列（邦文文献は五十音順、外国語文献ではアルファベット順）にしたものに基づき次のようにする。

- (1) 参照を示す場合：
（例）増淵（2010）によると……
- (2) 引用頁を示す場合：
（例）……」と述べている（増淵 2010、P.42）。

6. 参考文献の表記

- (1) 参考文献は文末に一括して掲示し、その配列は次のとおりとする。邦文文献の場合は五十音順、外国文献の場合はアルファベット順。

同一筆者で、発表年次が同年の場合は、著者名(2010a)、著者名(2010b)のように区別する。

- (2) 参考文献の表記については、次のとおりとする。

1)邦文文献

原則として、論文名は一重括弧「」、単行本名・雑誌名・新聞名等は二重括弧『』とする。

単行書：著者名(西暦)『書名』(シリーズ名) 出版社

(例) 増淵敏之(2010)『欲望の音楽—「趣味」の産業化プロセス』法政大学出版局 雑誌

論文：執筆者名(西暦)「論文名」『雑誌名』巻号、出版社

2)外国文献

著者名は原則として姓名を倒置する。

原則として、論文名は一重引用符「'」、単行本名・雑誌名・新聞名等はイタリックとする。

単行本：著者名(西暦), 書名(イタリック), 版次, 出版地, 出版社.

雑誌論文：執筆者名(西暦), '論文名', 雑誌名(イタリック), 巻号,出版社

以上